9　道路・信号

Ｑ５１　日本では、なぜ「車は左側通行、人は右側通行」なのですか。

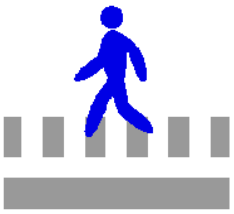
Ａ　「車は左側、人は右側」になったのは、昭和２５年（１９５０年）ころです。それまでは人も車も左側通行でしたが、交通安全のために、車はこれまでのまま左側通行とし、人は右側通行とする「対面交通」を取り入れました。

なお、外国ではアメリカ、ドイツなどが「人は左、車は右」、イギリス、オーストラリアなどが日本と同じ「車は左、人は右」の対面交通を取っています。

Ｑ５２　横断歩道は、いつ始まったのですか。

Ａ　横断歩道の始まりは、大正９年１月（１９２０年）に東京に設けられたものです。東京の市電を横切るために設けられたことから「横断歩道」とはいわず、「電車路線横断線」と名付けられていました。

※　横断歩道には、道路を渡る人に「ここを渡りなさい」と知らせたり、自動車を運転する人に、「横断する人がいるときには、いったん停止して安全に横断させてあげなさい」と呼びかけるなど、道路を横断する人の安全を守る役割があります。



Ｑ５３　信号機は、いつごろできたのですか。

Ａ　信号は、１８２５年にイギリスで、初めて鉄道が開通したとき、列車の案内をする人が、赤旗を振って周りの人に警告したのが始まりといわれています。

世界で初めての信号機は、イギリスで１８６８年に付けられました。

そのころは、火をともした緑と赤の２色で、ガスを使っていました。

電気を使った最初の信号機は、１９１８年にニューヨークの５番街に付けられました。

日本では、大正８年（１９１９年）に東京上野の松坂屋角十字路で信号機による交通整理が初めて行われました。この時の信号機は、「止レ」「進メ」の文字板が２つ付いていて、これを互い違いに手を使って下ろす木製のものでした。

日本で最初に電気を使った信号機は、昭和５年（１９３０年）に東京の日比谷交差点に付けられました。

千葉県では、昭和２９年（１９５４年）、国道１４号　市川駅前交差点に初めて付けられました。

Ｑ５４　信号機は、いくつありますか。

Ａ　千葉県内には、８，４７８基の信号機があります。

なお、全国には約２０万７千基の信号機が整備されており、一番多いのは東京都で約１万６千基、一番少ないのは鳥取県で約１，３００基、千葉県は　全国第８位の整備数です（令和５年度末）。

Ｑ５５　信号機の色は、なぜ赤、青、黄の３色なのですか。

Ａ　信号機の色は、青色は「進む（渡る）ことができます」、赤色は「止まれ」、黄色は「間もなく信号が赤色に変わるので進んで（渡り始めて）はいけません」という意味です。

１９２３年にイギリスで、今とほぼ同じ意味を持つ、赤、青、黄色の３色が使われるようになり、世界中に広まりました。日本もそれに合わせて、赤、青、黄色の３色で表すことにしたのです。

赤、青、黄色の３色については、これらの色が見えやすいことなどから、このようになったものと考えられます。

Ｑ５６　「青信号」というのに、なぜ緑色の信号があるのですか。

Ａ　昭和５年（１９３０年）日本で初めて信号機が付いたときは、法令では「緑色信号」と呼んでいました。

しかし世間では、「青色信号」や「青信号」と呼ばれていて、その呼び名で定着したことから、昭和２２年（１９４７年）に法令でも「青信号」と呼ぶこととなりました。

また、なぜ「緑色」を「青色」と呼んだかについては、日本語では、青葉、青物など「緑」のものを「青」と呼ぶことも多く、信号機も同じ理由から呼ばれたものと考えられます。

Ｑ５７　信号機を付ける場所は、どのようにして決めるのですか。

Ａ　走る車が多い道路で、車の流れを良くしたり、交通事故を防止したり、歩行者が安全に道路を横断することができるように、みなさんの意見と、現場の調査を基にして、信号機を付ける場所を決めています。

信号機のない横断歩道では、横断中や横断しようとしている人がいるときに、車は止まらなければいけません。

ですから、学校の正門や駅前などの横断者が多いところにある押ボタン式信号機は、横断歩行者の安全を確保する目的のほかに、歩行者を止めて車を進める目的もあります。

Ｑ５８　交通管制センターは、どのようなことをしているのですか。

Ａ　交通管制センターでは、道路の渋滞状況や交通事故などの渋滞の原因となる情報を集め、コンピューターで処理することで、車の流れが良くなるように信号機の時間の調整をしたり、交通情報板などで交通渋滞の様子をドライバーに知らせたりしています。